

令和7年度 社会教育委員 第1回会議

令和7年5月14日（水）
プラザおおるり第1会議室

【出席者】

社会教育委員：鈴木美香委員、中村吉哉委員、萩原淑恵委員、西田正銳委員、大畠健実委員、杉山里恵委員、杉本美智子委員、眞部和徳委員、河村晴夫委員、松浦優子委員
社会教育課：佐藤正己社会教育課長、杉山啓太郎社会教育係長

【会議の内容】

1 開会（事務局：杉山）

委員任命後初回の会議のため、議長・副議長が選出されるまでの間、事務局が暫定司会を務める旨を説明した。

2 委嘱状交付

令和7年5月1日から新任期となったため、佐藤課長から名簿順に一名ずつ委嘱状を交付。任期は令和9年4月30日までの2年間。委員10名に交付。

3 佐藤社会教育課長あいさつ

この度、社会教育委員をお引き受けいただき、感謝申し上げる。今年度から6名の委員を迎えて、新たなスタートとなる。

昨年度までは、令和4年度に教育委員会から諮詢した「島田市における公民館の今後のあり方」についてご協議いただき、答申書を提出していただいた。関わっていただいた方に改めて感謝申し上げる。人と人とがつながる公民館を目指し、協議と検討をしていくが、その中で皆様からご意見やご助言をいただくこともあるが、ご協力お願い申し上げる。

また、本件に限らず、島田市における社会教育の理想や課題についてもお聞かせいただき、今後の施策に反映させたいと考えている。

4 委員及び職員の自己紹介

委員、事務局職員の順で自己紹介を行った。

5 議長及び副議長の選出

議長、副議長の立候補者はなし。委員から萩原淑恵委員に議長、西田正銳委員に副議長との声があり、満場一致で承認された。推薦された両委員からも承諾を得た。

6 正副議長あいさつ

○萩原淑恵議長

・今年で4期目になる。これまでの議長たちが積み上げられてきたものを大切にしつつ、役割を果たしたい。皆様の新しい視点や意見を聞きながら、より充実

した活動をしていきたい。

○西田正銳副議長

- ・議長をサポートし、皆様と協力しながら、充実した社会教育委員の会議になるよう尽力していく。

7 議題

(1) 令和7年度社会教育課主要事業について

萩原議長進行

- ・佐藤社会教育課長から資料3「令和7年度島田市教育の施策の大要」を基に、主要事業について説明。

主要事業について委員からの意見

- ・資料14ページ事務事業評価シートの目標数値、令和6年度実績は見込みの数値とあるが、令和6年度の3月から令和7年度の4月までの実績ということか。
- ・2月、3月時点での作成数値のため、見込みとなっている。(事務局)
- ・資料16ページのウのネットパトロールは既に実施している事業なのか。
- ・民間に委託し、年間80万円ほどの事業費で実施している。(事務局)
- ・具体的にはどのようなことをしているのか。
- ・学校が指定していないページの閲覧履歴のチェックなどをしている。(事務局)
- ・社会教育課の事業概要は、以前の流れを汲んでいるだけのように感じる。前年度と比較し、新しいものが見受けられない。
- ・引きこもり支援に関して「居場所事業」を展開している。この事業は、部屋にゲーム機などを設置し、まずはそこに来てもらうことを目的としている。(事務局)
- ・事務事業評価シートの目標数値の項目を見ると、人数や回数があり目標となっている。答申した公民館の活用については、数では計ることができない面を話し合った。そのような成果を確認できる項目、満足度のようなものに変更できるのか。
- ・委員の意見のとおりであり、改善すべきであると考えていた。検討する。(事務局)
- ・六合コミュニティも公民館を利用しているが、LINEを利用し公民館に集まる会議は少なくなった。サークルは38団体があり、それぞれ活発に活動している。
- ・社会教育課の事業の説明があったが、社会教育委員は事業に対してどのような関わり方をするのか。
- ・事業の説明は、自己紹介のようなものとして捉えていただきたい。教育委員会が社会教育委員に対して諮詢するので、それに対して協議していただき、答申をいただくことが基本。次回の諮詢事項は決まっていないが、課題としていくつか考えていることはある。引きこもりや不登校といった社会問題が増えるような環境にあることや、部活動の地域移行という課題にも直面して

いる。皆様が感じている社会教育に関する課題についても、お話をいただき決めていきたいと考えている。全国的な問題であっても島田市であればどのようなことができるかを皆様にご協議いただければと考えている。(事務局)

- ・社会教育委員の会議でのテーマをこれから協議するということか。
- ・そのとおり。公民館に関する答申の進捗についても、この場で確認していただきたいと考えている。(事務局)
- ・社会教育課の事業全般に意見や提案を持っていれば、意見を出す機会は文書での提出でもいいのか。
- ・そのとおり。問題はない。(事務局)

今年度の活動方針について委員から意見

- ・社会教育の本来の在り方は、住民による住民のための住民の教育。行政が関与する部分は条件整備など必要最低限に抑えられ、住民が主体的に活動していくことが理想。生涯学習大綱は自己実現を目的としたもの。地域では人口減少や高齢化、自治会の維持、学校教育の将来への不安など、現実的な課題が山積していて、社会教育としてどのようなアプローチができるのか。色々な活動をしている団体を繋ぎ、これらの問題に対しどのような枠組みを提供できるか、どのようなヒントを示せるのか皆様と考えていきたい。
- ・ウェルビーイングの考え方。従来の幸せ感や満足感では不十分とされる時代において、日本の満足度や幸せ感はOECD加盟国の中でも非常に低いというデータがある。若者や将来を担う世代に新しい価値観を提供することが重要。委員の皆様と社会教育として施策を打ち出せないかを考えている。
- ・地域のウェルビーイング、幸福度は数値化されており、誰でも確認できる。多様性と言われるが、引きこもりや不登校も多様性を受け入れることに繋がる。必ずしも学校に行かなければならぬという考えも自然と持てるような教育環境が大事。社会福祉協議会が小学4年生になると福祉授業を毎年行ってくれている。子どもたちはその授業を通じ、地域の方々を招いて楽しい活動を計画したり、地域と繋がりを作ることに向かって学んでいる。そのように学校の授業だけでなく社会教育の講座でも賄う方法があるのではないか。
- ・勤めをしている家庭が多いと感じる。学校が終わった後の子どもたちの過ごし方について課題を感じている。低学年は学童などの居場所があるが、以後4年生、5年生、6年生くらいになると行き場所が無くなっている。そうした状況の中、高学年の子どもたちが学校施設やグラウンドを利用し、学童のように管理されない遊ぶ居場所があれば良いのではと思う。子どもが自分で行って帰ってこられる範囲の中で遊び場、友達がいて、そこに様子を見てくれている大人がいて、安心して過ごせる環境が理想。
- ・今の社会では子育てをするお母さんたちが、子どもの育て方について不安を抱えているケースが多い。育児に関する知識や技術を得る機会が少なく、孤立してしまう親もいる。月に1回、子育てサロンを実施しているが、地域の先輩ママやおばあちゃん世代の方々が協力し、育児に役立つ声かけや対応方法を教えるような機会がある。日常の中で心の支えになるのではと思う。
- ・大学で講義をしていたが、現在の若者の学ぶ意欲は多岐に亘って非常に高

い。仏教系の大学では、学校の雰囲気そのものが良い影響を与えていた。地域のコミュニティもいい雰囲気があるのであらうが、見えない。どこかにスポットを当てて、成功しているような事例を拾い上げる作業をし、いい事例があれば検討し、広げられるのかを考えることが必要だと感じている。事例や成功例を集めて分析し、数値ではなくどういうプロセスで成果を得られたのか、地域の充実度や満足度が高まったのか、ポイントを明確にすることが重要である。

- ・人口が減少し、68自治体同じ活動ができない。地域性も出てきているので、可能なことを実践すればいいのではないか。自治会に入らない組もある。それによって地域のゴミ出し問題やコミュニケーションの問題が発生している。また、世代交代が遅い傾向があり、新しい住民との関わりが難しくなるケースもある。
- ・子育て環境として、学童保育においても課題がある。学童が低学年の子どもたちしか受け入れない現状では、高学年の子どもは行き場を失い、困っている家庭が増えている。また、祖父母が近くにいれば助けを得ることもできるが、こうした家族構成も減少しているのが現状。朝早く働きに出る親もあり、朝早くから子どもの世話を頼む場所がないという問題もある。家庭環境が変わってきており、社会全体で見守る環境が必要。
- ・川根地区は人口が減少しており、子どもたちは大学などで外に出るとほぼ川根には帰ってこない。若者が地域の活動に参加する意欲が低く、同じ少人数メンバーでイベントを運営している状況では、新しい意見や柔軟性が生まれにくい。少子化や人口減少の影響で、地域のコミュニティが立ち行かなくなる可能性があると感じている。学校の統廃合が進んでいるが、学校が無くなることはその地域の存続に直結する大きな問題なので学校だけは守っていきたい。
- ・島田市は「子育てのまち」を掲げているが、現実としてうまく進んでいない部分があると感じる。色々な人がいて、お母さん達の息苦しさも同じではない。その中で緩やかに繋がることは大事で、色々なところに助けてくれる人がいるという安心感が地域の温かさのようなものになるのではないか。公民館を中心に参加を促進するのも手法の一つ。キャッチできる人、できない人、来る人、来ない人、何事も二極化してきていると感じている。
- ・ウェルビーイング、誰かが幸福度を高めてくれる、社会教育委員が基軸となって活動できたらいいのではないか。困っていることはたくさんあり、地域を巻き込んだ子育て、学童の問題、人口減の問題、自治会の問題などから絞り、動きができればいい。

(2) 今年度の活動について

事務局から資料4を基に説明。

8 その他

(1) 令和7年度社会教育基礎研修について

事務局から資料5を基に説明。

9 閉会（西田副議長）

6名の新任委員により議論が活発化した。人の意見を聞いて、尊重する姿勢が全委員にある。1年かけてゆったりと、公民館の答申の検証をしていくことと研究テーマを決めていくことが必要。どこに焦点を当てていくか、今日の会議ではキーワードとしては、弱者とコミュニティあたりがポイントになってきているようなので、そのあたりを繋げていけたらいい。